資料１－２

選択肢を検討するに当たっての視点

○　選択肢に求められる基本的条件を検討するに当たっては、これまでの議論に加えて、「利用者の視点」と「実現可能性の視点」も必要ではないか。

（利用者の視点）
- 提供されるサービスの内容が、利用者の状態（医療の必要性、要介護度など）に即したものであること
- 長期にサービス提供を受ける場として、適切な生活空間が確保されていること
- 費用面から見て、利用者にとって負担可能なものであること　など

（実現可能性の視点）
- 地域のマンパワーで賄える形態であること
- 既存施設の有効活用が図られるような形態であること
- 経営者・職員にとっても魅力があり、やりがいが感じられるものであること

など

○　「医療」「介護」「住まい」の機能の組み合わせを考えるに当たっては、以下のような点に留意すべきではないか。

- 日常的な医学的管理を継続して必要とし、かつ、一定程度の介護を必要とする方が中心となるサービス提供の在り方については、どのようなものがあるか。
  例えば、「医療」と「住まい」の機能を同じ場所で提供するような類型が、その受け皿として考えられるか。
- 一方で、現在、療養病床に入院されている方々の中には、上記のような状態に加え、さらに、容体が急変するリスクを抱えている方々も一定程度いるものと考えられる。このような方々に対応するサービス提供の在り方については、例えば、夜間や休日における当直体制または当直体制を補完できるような医療機能を備えた類型が必要ではないか。
- 「住まい」については、各居住者のプライバシーが尊重され、自律した日常生活を送ることができる環境が確保される必要があるのではないか。
- 医療や介護の人員配置等の基準については、必要なところには適切な要件を設ける必要がある一方で、併設施設の人員の活用も含め、現行よりもより柔軟な基準にすることが考えられるか。
- 地域包括ケアの推進の観点から、在宅療養（ほとんど自宅・ときどき入院）の充実についても推進していくべきではないか。　など